

花鳥風月
短歌

花鳥風月
・短歌

雲流る今朝の空色絵の如し

塗堀良子

気高く聳え四国山脈

雄大な石鎚山の初雪が

朝日を浴びて光り輝く

一色ノブ

卒寿の「菊名人や」菊花展

紅白の幕はなやぎ咲きて

石井トシ子

麦ふみのできる喜び共に生き

ねあげの年に共に働く

かさこそと音たてながら枯れてゆく

白連のつぼみ大きく見ゆ

曾我部福石

久々の道後の湯へとゆつくりと

浸かる夫婦の旅へと感謝

うちぬきの水に我が身を映しつつ

歩めば樂し西条の町

小田和子

皆既月食地球の影は薄いねと

夜空を眺め妻のため息

釣竿のぴくりともせず小春凧温き

コンクリートの岸に貼り付く

小田慶喜